

23. けい光ランプによる色の演色性について

(第6報)

岐阜大学芸 中野みち代

前報において既に第1報より第5報まで報告をしたが第5報においては形の点で視覚 $1^{\circ}-1^{\circ}$ $1^{\circ}-2^{\circ}$ $1^{\circ}-4^{\circ}$ $1^{\circ}-7^{\circ}$ $2^{\circ}-1^{\circ}$ $2^{\circ}-2^{\circ}$ $2^{\circ}-4^{\circ}$ $2^{\circ}-5^{\circ}$ について実験を行なったがその結果は $1^{\circ}-2^{\circ}$ $2^{\circ}-5^{\circ}$ が比較的演色性が良く、 $1^{\circ}-4^{\circ}$ $1^{\circ}-7^{\circ}$ によると細長く形の変化が生じ $2^{\circ}-2^{\circ}$ $2^{\circ}-1^{\circ}$ $2^{\circ}-4^{\circ}$ によると面積に対する影響で演色性が大であることが実験の結果より明らかになったので、今回は試料を日本毛織株式会社ニッケビクター毛糸中細の赤(553)黄(624)緑(672)青(738)紫(796)灰(836)を試料に選び編物による色の演色性と形による変化について実験を行ったので報告する。